

国際P2M学会 2020年度 秋季研究発表大会プログラム(Web開催)
 2020年10月17日(土) 開催校:早稲田大学 大会テーマ「危機を乗り越えるP2M」

大会予稿集
 質疑応答表 大会参加者に別途通知

一般公開用
 各種URLは参加登録者
 のみお知らせしています

研究発表の部(オンデマンド配信): 10月17日～11月16日(質疑入力は10月25日、返答は10月27日まで)

NO.	分類	発表者	連名者	タイトル	発表動画URL 11月16日まで配信	座長
1	企画・R&D	亀山 秀雄	宇仁菅伸介	環境行政分野における競争的資金管理業務の研究開発プログラムのP2Mによる考察	大会参加者に別途通知	和田 義明 久保 裕史
2	企画・R&D	田隈 広紀	岩上由高	Modeling of Value Indicators and Extraction of Key Management Points in Product Development using Bayesian Network and Hierarchical Clustering		和田 義明 久保 裕史
3	企画・R&D	関口 幸治	岡田 公治	半導体企業におけるプロジェクトマネジメント強化活動の振り返り — プログラムマネジメント及びビジネスエコシステムの視点の重要性 —		和田 義明 久保 裕史
4	ICT系	今野 裕紀	小笠原秀人	P2Mを活用したプロセス改善活動推進フレームワークの提案		玉木 欽也 田隈 広紀
5	ICT系	山北 剛史		アジャイル開発スクラムを実行する役割とリーダーシップの変化の考察		佐藤 達男 小笠原 秀人
6	ICT系	上條 英樹		DX向けRPA(Robotics Process Automation)プロジェクトへのP2M理論の適用 — デザイン思考による作業自動化から業務自動化への考察 —		佐藤 達男 小笠原 秀人
7	人材育成	亀山 秀雄		P2M理論に基づくURA研究マネジメント手法		玉木 欽也 田隈 広紀
8	人材育成	玉木 欽也	佐久田博司、新目真紀、中邨良樹、高松朋史	3Sモデルを適用したPBLとALを融合した教育方法とハイブリッド型学習プラットフォーム 課題解決学習(PBL)、アクティブラーニング(AL)		佐藤 達男 小笠原 秀人
9	社会系	岡田 久典	山本百合子、永井祐二、中川唯、関研一	社会課題解決支援策の統合的運用に関する研究		玉木 欽也 田隈 広紀
10	社会系	東海林 伸篤		官民連携による公共空間の整備・運営に関する研究 市民参加の視点を踏まえた事業 プロセスモデルの類型化と分析		中村 明 沖浦 文彦
11	社会系	大和田 順子	吉田恵美子	「市民協働による地域復興共創システムに関する考察 ～「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を事例に～」		中村 明 沖浦 文彦
12	社会系	中野 健太郎	永井祐二、小野田弘士	住民協働を促進する地域情報システムの開発 ～豊島廃棄物等処理事業における情報 可視化による合意形成事例～		中村 明 沖浦 文彦
13	社会系	新多 泰典	佐藤 照友旭、岡田真平、小口貴久、Bobby Chisholm、久保裕史	P2Mを用いた高所トレーニング地方創生プログラムの提案		中村 明 沖浦 文彦

午後の部(ライブ配信): 10月17日13:00～16:50

Zoomミーティング参加へのURL(12:40から入室可能)

大会参加者に別途通知

- 13:00 - 13:20 開会挨拶 山本秀男 氏(国際P2M学会会長)
 開催校挨拶 友成真一 氏(早稲田大学 環境総合研究センター所長、教授)
- 13:20 - 14:20 基調講演「グローバルヘルスの考え方」～世界での経験から～
 池上清子氏(長崎大学 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授)
- 14:20 - 14:30 休憩
- 14:30 - 16:40 パネルディスカッション「危機を乗り越えるP2M」
 モデレータ: 岡田久典 氏(早稲田大学 環境総合研究センター 上級研究員)
 パネリスト(順不同):
 池上清子 氏 (長崎大学 教授)
 白井久美子 氏(日本ユニシス(株) 執行役員)
 吉川成美 氏 (県立広島大学大学院経営管理研究科教授)
 島岡未来子 氏(早稲田大学 教授、神奈川県立保健福祉大学 教授)
- 16:40 - 16:50 閉会挨拶 久保裕史 氏(国際P2M学会副会長)